

## 「基本理念等に対する主な委員意見」

●基本理念			
	第4回 検討委員会提案	意見票集約後	主な委員意見
説明文	「区民や市民活動団体と区が協働して、多様な人々がともに支えあい、交流し、心豊かな住みやすい暮らしを実現する」	「区民、市民活動団体及び区が協働して、多様な人々がともに支えあい、交流し、心豊かな住みやすい暮らしを実現する」	よいと思います。平易な言葉で誰にもわかりやすい表現になっています。初見で拝見したときにも違和感はなく良いと感じました。さまざまな意見があった中でこれだけシンプルな言葉にまとめていただくのは大変な工程だったと思います。ありがとうございました。
	平成28年12月策定の世田谷区本庁舎等整備基本構想に基本的方針の一つとして掲げた「区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎」。この方針に基づいて設計された新庁舎は、特にエントランス部分に位置する大規模な区民交流スペースについて、設計段階の検討会では、淡水と海水が交じり合い、多様な生物が共生し合う「汽水域」のように、 <u>多様な人々の共生の場になることが提案されました。</u> この区民交流スペースに加え、世田谷区民会館、広場、屋上庭園等も含めた区民利用施設を舞台とし、さまざまな区民、市民活動団体と区が共生して相互に影響を与え合いながら、多様な人々、一人ひとりが新たな縁を生み出し、交流して、心豊かな住みやすい暮らしを実現することをめざします。	平成28年（2016年）12月策定の世田谷区本庁舎等整備基本構想に基本的方針の一つとして掲げた「区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎」。この方針に基づいて設計された新庁舎は、特にエントランス部分に位置する大規模な区民交流スペースについて、設計段階の検討会では、淡水と海水が交じり合い、多様な生物が共生し合う「汽水域」のように、 <u>人々の共生の場になり、ここで生まれる新しい関係が社会課題の解決に取り組む体制となることを将来像としました。</u> この提案を受けて、区民交流スペースや、世田谷区民会館、広場、屋上庭園等も含めた区民利用・交流拠点施設を舞台とし、さまざまな区民、市民活動団体及び区が協働して相互に影響を与え合いながら、多様な人々、一人ひとりが新たな縁を生み出し、交流して、心豊かな住みやすい暮らしを実現することをめざします。	『汽水域』が基本理念にどう取り入れられたかは記載されていないように見える。「『汽水域』とはこういったものです」ということ、採用するのであればどう取り入れられたかが分かるような説明に変えていただきたい。  前文は、趣旨・目的・基本原則を示すもので、しばしば制定に至る「経緯」に言及します。 世田谷区本庁舎等整備基本構想や、設計段階の検討会に触れているのは、その観点から至極妥当で、特に「汽水域」というキーワードを掲げていることには改めて賛成します。  全体として、文言に多様性（「多様な」「さまざまな」）と共同性（「協働・交流」「共生」）を盛り込もうとしている点は、よいと思いました。  「心豊かな住みやすい暮らしを実現する」のくだりは、以下の理由により、再考すべきだと思います。 ①環境問題が深刻化している中で、住みやすい（livable）という言葉は、軽すぎるため。 ②基本理念（案）で示されていた「悩み・課題解決」の視点は維持すべきであるため。
●基本方針			
	第4回 検討委員会提案	意見票集約後	委員意見
(1)	<b>多様な人々の交流を促進する場をつくる</b>	<b>多様な人々の交流を生み出す場をつくる</b>	「文化」としていた分野は、既存のSDGs論議などと照合した結果、「社会」とした方が、よりフィットする。 「文化」にすべて包含するのは、いささか無理がある。「社会」として分野設定した方が、実情に即しているし、わかりやすくも思います。
	■ 誰でも日常的に訪れることができる空間や事業を提供する。 ■ 区民や市民活動団体が運営に関わり、施設を積極的に利用して活動することで、区民自治に向けた共生・共助を促進する。	■ 誰でも日常的に訪れることができる空間や事業を提供する。 ■ 区民や市民活動団体が運営に関わり、 <u>区民利用・交流拠点施設</u> を積極的に利用して活動することで、区民自治に向けた共生・共助を生み出す。	
	■ 市民活動団体と区が協働した活動や、地域、教育機関、事業者、市民活動団体等と連携した取り組みを実施する。	■ <u>区が市民活動団体、地域活動団体、教育機関、事業者等と協働・連携した取り組み</u> を実施する。	
(2)	<b>文化・芸術によって暮らしを豊かにする</b>	<b>文化・芸術によって暮らしを豊かにする</b>	
	■ 全区的な文化・芸術の拠点として位置付ける世田谷区民会館において、区民の誰もが多様で創造的な文化・芸術にふれ、体験・参加し、親しむことができる機会を提供する。 ■ <u>区民や市民活動団体の文化・芸術活動を推進する。</u>	■ 全区的な文化・芸術の拠点として位置づける世田谷区民会館において、区民の誰もが暮らしの中で、多様な文化・芸術にふれ、体験・参加できる機会を提供する。 ■ <u>区民、市民活動団体及び区等の文化・芸術の取り組みを推進し、心豊かな活力あるコミュニティの形成につなげる。</u>	
	■ 世田谷の文化・芸術の特色を踏まえた取り組みを推進し、地域の魅力向上に寄与する。	■ 世田谷の歴史や文化・芸術の特色を活用し、地域の魅力向上に寄与する。	

<p>(3) <b>みどりで多様な主体をつなぎ、心潤う環境をつくる</b></p> <p>■ 「世田谷みどり33」の拠点として、魅力ある緑化空間づくりと拡大に取り組み、みどり豊かで住みやすい「世田谷らしさ」のある風景の創出によって、環境課題の解決にも貢献する。</p> <p>■ 多様な人々がみどりを通して環境と調和する場を共に創り上げ、その多面的機能や価値を共有し、すべての持続可能性の基層である環境の保全に向けた意識を醸成する。</p>	<p><b>みどりで多様な主体をつなぎ、心潤う環境をつくる</b></p> <p>■ 「世田谷みどり33」をめざした「区役所一帯のみどりの拠点」として、魅力ある緑化空間づくりと拡大に取り組み、みどり豊かで住みやすい「世田谷らしさ」のある風景の創出によって、みどりの量と質を高めることに貢献する。</p> <p>■ 多様な人々がみどりを通して環境と調和する場をともに創り上げ、その多面的機能や価値を共有し、すべての持続可能性の基層である「環境」にかかる負荷を低減させるための意識を醸成する。</p>	<p>みどりは、環境とすべきだと、改めて主張させていただきます。屋上庭園と広場をもって「みどり」のシンボルとすることにはやはり無理があると思います。</p> <p>目下、グリーンインフラの代表例として区が取り組む「雨庭」が造成される計画もないし、壁面緑化やうめとびあのかご樋等の採用もありません。</p> <p>世田谷区気候非常事態宣言や、世田谷区地球温暖化対策地域推進計画との絡みからも、広く環境に間口を取って、区内事業者が取り組むグリーンアップサイクル素材の採用等、できることを実践し、区民に示していくことは、重要な使命だと思います。</p> <p>「環境」を前面に出すと、広く捉えられてしまうため、何を示しているか分かりづらくなる。</p>
<p><b>●実現に向けた取り組み</b></p>		
<p>第4回 検討委員会提案</p> <p>基本理念を達成するためには、「多様な人々が訪れ、交流する場をつくる」取り組みが求められます。</p> <p>この取り組みを実現するためには、高齢者や障害者、外国人等、区民の誰もが関わりやすい仕組みの中で、一緒に時間を共有して、試行を重ねながら、組織や人を育み、進めていくことが必要です。</p>	<p>意見票集約後</p> <p>基本理念を達成するためには、「多様な人々が訪れ、交流する場をつくる」取り組みが求められます。</p> <p>この取り組みを実現するためには、子どもから若者・高齢者や、障害者、外国人等、区民の誰もが関わりやすい仕組みの中で、一緒に時間を共有して、試行を重ねながら、組織や人を育み、進めていくことが必要です。</p>	<p>委員意見</p>
<p>(1) <b>区民、市民活動団体、区等が協働し、地域と連携する一体的な運営組織をつくる</b></p> <p>・区民や市民活動団体、区等が運営に参画し、地域と連携する組織を構築し、区民利用施設で実施する事業や活動に横断的に関わる。</p> <p>・施設全体への区民参画のあり方と併せて、緑化空間の持続的運営のための「グリーンコモン」(みどりを育む共同体)について検討し、試行する。</p>	<p><b>区民、市民活動団体及び区等が協働し、地域と連携する一体的な運営組織をつくる</b></p> <p>・区民、市民活動団体及び区等が運営に参画し、地域と連携する組織を構築し、区民利用・交流拠点施設で実施する事業や活動に横断的に関わる。</p> <p>・区民利用・交流拠点施設全体への区民参画のあり方と併せて、緑化空間をコモンのように共同管理することについて検討し、試行する。</p>	<p>よいと思いました。</p> <p>最初の2項目は、区民の参加・参画を意図されたことが明確でこれまでにない形を模索されようとしている世田谷区さんの意気込みを感じました。どの項目も言葉をなんとなく置いただけでなく、「実行する」ことを明言しています。ここが素晴らしいと思いました。有言実行に向け、サポートできることがあればしたいと感じました。</p> <p>「『グリーンコモン』(みどりを育む共同体)」という言葉は、第2回ワールドカフェで私の発言として紹介したのですが、「ワールドカフェ開催結果概要」にあるとおり、私は「共同管理(コモン)」について語ったのであって、「グリーンコモン」は使ったことがありません。</p> <p>私はみどりに限らず、他の施設においても、基本的には「コモンの運営」を目指すべきだと考えています。</p>
<p>(2) <b>つなぎ役を設置する</b></p> <p>・地域の課題やニーズに応じ、区民、市民活動団体、区とのマッチング・交流など様々な案内や相談対応などを行う機能を試行する。</p> <p>・区民交流スペース等で、利用者同士が顔見知りになり、つながるためのつなぎ手としての役割を担うこともめざす。</p>	<p><b>交流・共生を生み出す「つなぎ役」を設置する</b></p> <p>・地域の課題やニーズに応じ、区民、市民活動団体及び区とのマッチング・交流など様々な案内や相談対応などを行う機能を試行する。</p> <p>・区民交流スペース等で、利用者同士が顔見知りになり、つながるためのつなぎ手としての役割を担うこともめざす。</p>	<p>「つなぎ役を設置する」という部分についても、もう少し丁寧な書き方が必要だと思われる。</p>
<p>(3) <b>区民が主体的に関わる事業を実施する</b></p> <p>・市民活動の持続的発展のため、新たに活動に参加する区民を増やすための普及事業を実施する。</p> <p>・誰もが参画・協働できる文化・芸術環境を整備していくために、区民参加の文化事業やワークショップ等を開催する。</p>	<p><b>区民が主体的に関わる事業を実施する</b></p> <p>・市民活動の持続的発展のため、新たに活動に参加する区民を増やすための普及事業を実施する。</p> <p>・誰もが参画・協働できる文化・芸術環境を整備していくために、区民参加の文化事業やワークショップ等を開催する。</p>	

<p>・みどりを楽しむことが区民にとって習慣づけられ、<u>みどりを増やす活動</u>が区民に浸透するよう、「見て、楽しむ」だけでなく、「育み、活かす」事業の推進と定着化を図る。</p>	<p>・みどりを楽しむことが区民にとって習慣づけられ、<u>地域におけるみどりの役割を大切に</u>する活動が区民に浸透するよう、「見て、楽しむ」だけでなく、「育み、活かす」事業の推進と定着を図る。</p>	<p>みどり33の拠点にほど遠いという方のご意見ももっともですが、「みどりを増やす活動が」という量的な部分への記載を、質的な「みどりを活かした住みやすい」等の書き方にしたほうがよいと思います。</p> <p>みどり33は、質的目標と量的目標と協働の3つを掲げています。量的には貧弱であっても質によって十分な満足を得られるというのがみどりの特徴であると思っており、量的目標を掲げることは無理があると思っているので、質的な部分を強調するのが良いと思います。</p>
<p><b>(4) 誰もが使える、憩える空間をつくる</b></p> <p>・区民が気軽に立ち寄れる、思い思いの時間を過ごせる居場所となるような空間づくりを実施する。</p> <p>・区民同士や区民と区などのミーティング、学習や研修、ワークショップなど、多様な体験や新しい経験ができる場を提供する。</p> <p>・イベントや展示など、さまざまな企画を試行し、<u>文化・芸術振興の場、賑わいづくりの場</u>としてのイメージを創出する。</p>	<p><b>誰もが使える、憩える空間をつくる</b></p> <p>・区民が気軽に立ち寄れる、思い思いの時間を過ごせる居場所となるような空間づくりを実施する。</p> <p>・区民同士や区民と区などのミーティング、学習や研修、ワークショップなど、多様な体験や新しい経験ができる場を提供する。</p> <p>・イベントや展示などを通して、<u>市民活動団体等との協働</u>や文化・芸術の創造性などから生み出される様々な価値により、<u>活力ある賑わいづくりの場</u>としてのイメージを創出する。</p>	<p>「誰もが使える、憩える空間をつくる」は、私は一番重視する項目です。異なる意見はでていましたが、ルールを決めることなく、言葉通り「誰にとっても居場所」となることが大事だと考えます。そしていままでも区役所にくることのなかった人たち、とりわけ若い人が訪れ、多世代が交流する空間をつくるのが重要だと思います。誰にとっても「第三の居場所」となるよう、この項目はそのままにしてほしいです。</p> <p>「誰もが使える、憩える空間をつくる」とあるが、「誰が来ても、それこそ寝転んでいても良い」というように捉えられる。趣味の活動だけではない取り組みをしていくことが重要だと思う。現在の市民活動に関する空間では、「市民活動」に当てはまらない個人的、排他的な活動が多く、新施設ではそういった部分が広がらないような言葉遣いが良いのではないかと。</p> <p>「汽水域」というと、流れのようなものが起こった中で出会う場という印象を受けます。 「与えたい」というような、「共生」＝「調和」というような形では、もともとある意識の高さを感じられ、汽水域のような流れを感じられないのではないかとように思いました。 外国人の方等、どのコミュニティにも属していない方も参加していけるような余地を、現時点では残しておいたほうが良いのではないかとしました。</p> <p>一案として、「文化・芸術振興の場、賑わいづくりの場」を、「文化・芸術の創造性を生かした賑わいづくりの場」としてはどうでしょうか。</p>
<p><b>(5) 地域と連携した事業を実施する</b></p> <p>・エリアマネジメントとして、商店街、教育機関、図書館など、<u>地域資源と連携した事業</u>に取り組む。</p>	<p><b>地域と連携した事業を実施する</b></p> <p>・商店街、教育機関、図書館、<u>公園緑地</u>など、<u>地域的人的・文化資源と連携した地域の価値を高める事業</u>を実施する。</p>	<p>「地域と連携した事業」という説明文に、「エリアマネジメント」「地域資源と連携した事業」という言葉があり、非常に興味をもちました。魅力的な試みが興りそうで楽しみになりました。大いに賛同します。</p> <p>例示のひとつに「公園緑地」を入れていただきたい。</p> <p>エリアマネジメントとして、商店街、教育機関、図書館など、地域資源と連携した事業に取り組む。 ↓ (提案) 商店街、教育機関、図書館など、地域資源と連携した事業に取り組み、地域の魅力を発信する。</p> <p>(理由) 当初、「基本目標」としていたから、あげてくださったワードと思われ、まずやるべき「実現に向けた取り組み」としてエリアマネジメントはあまりにも重い。</p>